

戦争に翻弄され  
ビキニ水爆実験被災者

(上)

高知県内には、アメリカが1954年に行なったビキニ水爆実験で被ばくした元マグロ漁船員が多く暮らしています。元漁船員らが今年3月30日に高知地裁判訴した「ビキニ労災訴訟」を支援する人たちと当事者の思いを追いました。

(阿部活士)

裁判は、水爆実験後の政治決着で米国への損害賠償請求権が失われた損失補償を求めるものであります。支援する太平洋核被災支援センターで共同代表を務める濱田郁夫さん

## ビキニ被災船(室戸岬)

登録船名	船主	住所	放射線検査
1 宋勝丸	小野 錠	宇戸町278番	大原5.11マス+120
2 第1王子丸	木屋正行		
3 第1王子丸(2)			
4 海運丸	福島正夫	平野淳一	
5 第1新南丸			
6 第3新南丸			
7 第2勝利丸	氏原三郎	山本謙三	
8 第7加治丸	深本謙三		
9 第11加取丸			
10 加宝丸	松本梅竹	山本正	
11 第5新南丸	川口安吉	山本勝	
12 第2新南丸	山本勝	作原	
13 第5新南丸①			
14 第5新南丸②			
15 第3久保丸	久保米一郎		
16 第5幸成丸	中野伸馬	原田政	
17 第7幸成丸	中野伸馬	原田政	
18 第2幸成丸	吉川敏	原田政	
19 第7幸成丸	的井米一郎	原田政	
20 松栄丸	松栄一章		
21 第2幸成丸	松井茂重		
22 第1幸成丸	久村馬五郎		
23 第3幸成丸	久村馬五郎		
24 第5幸成丸①	久村馬五郎		
25 第5幸成丸②	久村馬五郎		
26 第7幸成丸	久村一郎		
27 第5幸成丸	中島虎一郎		
28 第2幸成丸	中島虎一郎	上田喜	
29 第5幸成丸	中島虎一郎		
30 第8大黒丸	丘原景吉		
31 第2大黒丸	中島正信		
32 第5大黒丸	山崎一郎		
33 第7大黒丸	山崎一郎		
34 第5新南丸	川村伸三		
35 大洋丸	川村伸三		
36 第5太宝丸	鈴木小太郎		
37 第2長久丸	河野 勇		

室戸と室戸岬の漁協ごとに作成した「ビキニ被災船」

## 人生の記録埋もれさせぬ

戸と室戸岬の漁協にそれぞれ約70隻の遠洋漁船があつたようです。1隻あたり20人から25人の船員が乗っていたとすると約3000人の漁船員が元船員や遺族から聞き取り調査し、証言記録をつけたり高齢化の目的です。「被災船のうち、ビキニ元船員や遺族から聞き取り調査したい」と話す濱田さん(左)と小山さん(右)

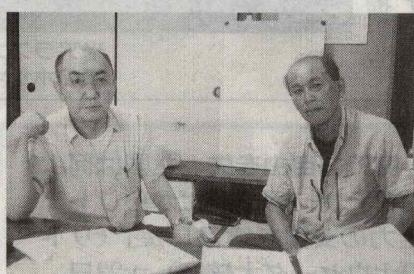
戸岬で68隻の名簿です。

浜田さんは30年余の調查の積み上げとして今年2月、「ビキニ被災支援する室戸の会」を立ち上げました。浜田さんは「ビキニ国賠訴訟(2016年5月9日提訴。18年7月の一審高知地裁、19年12月の二審高松高裁判決ともに訴えを棄却。上告せず新たに労災訴訟を提起)を起こした元漁船員が乗っていた、第2幸成丸、被災船のうち、ビキニ元船員や遺族から聞き取り調査したい」と話す濱田さん(左)と小山さん(右)

浜田さんは「ビキニ国賠訴訟を提訴してから住民に意識の変化があります。玄関先で訪問を断る家はなくなり、家の中まで迎え入れて、話しこむこともしばしばある」といいます。「ビキニ事件は国が『むしこんだ』(ふたをした)事件にしましたが、それが『むしこんだ』(ふたよね)といわれるといいます。

浜田さんは7月中旬、コロナ禍の影響で中断していました聞き取り調査を再開させました。サブリーダーの小山求さんらと第1寿々(すず)丸と第1

米国のビキニ水爆実験全像を記録として残したい」(つづく)



被ばくした100人を目指して聞き取り調査したい」と話す濱田さん(左)と小山さん(右)

戸岬で68隻の名簿です。

浜田さんは30年余の調査の積み上げとして今年2月、「ビキニ被災支援する室戸の会」を立ち上げました。浜田さんは「ビキニ国賠訴訟(2016年5月9日提訴。18年7月の一審高知地裁、19年12月の二審高松高裁判決ともに訴えを棄却。上告せず新たに労災訴訟を提起)を起こした元漁船員が乗っていた、第2幸成丸、被災船のうち、ビキニ元船員や遺族から聞き取り調査したい」と話す濱田さん(左)と小山さん(右)

浜田さんは「ビキニ国賠訴訟を提訴してから住民に意識の変化があります。玄関先で訪問を断る家はなくなり、家の中まで迎え入れて、話しこむこともしばしばある」といいます。「ビキニ事件は国が『むしこんだ』(ふたをした)事件にしましたが、それが『むしこんだ』(ふたよね)といわれるといいます。

浜田さんは7月中旬、コロナ禍の影響で中断していました聞き取り調査を再開させました。サブリーダーの小山求さんらと第1寿々(すず)丸と第1

米国のビキニ水爆実験全像を記録として残したい」(つづく)

戸岬で68隻の名簿です。

浜田さんは30年余の調査の積み上げとして今年2月、「ビキニ被災支援する室戸の会」を立ち上げました。浜田さんは「ビキニ国賠訴訟(2016年5月9日提訴。18年7月の一審高知地裁、19年12月の二審高松高裁判決ともに訴えを棄却。上告せず新たに労災訴訟を提起)を起こした元漁船員が乗っていた、被災船のうち、ビキニ元船員や遺族から聞き取り調査したい」と話す濱田さん(左)と小山さん(右)

浜田さんは「ビキニ国賠訴訟を提訴してから住民に意識の変化があります。玄関先で訪問を断る家はなくなり、家の中まで迎え入れて、話しこむこともしばしばある」といいます。「ビキニ事件は国が『むしこんだ』(ふたをした)事件にしましたが、それが『むしこんだ』(ふたよね)といわれるといいます。

浜田さんは7月中旬、コロナ禍の影響で中断していました聞き取り調査を再開させました。サブリーダーの小山求さんらと第1寿々(すず)丸と第1

米国のビキニ水爆実験全像を記録として残したい」(つづく)